

おおい図書館

No107
発行
代表
青木 和子
松本市牧の原1-104-416
TEL 0571-371-0886

講演会

図書館へ行こう！

10月29日(土)、岩波ジュニア新書

「図書館へ行こう」の著者田中
子さんへ杉並区立中央図書館司書
のお話を聞きました。(松戸市民
劇場第二会議室 参加者28名)

田中：杉並区には、約52万人の人
が住んでいます。ここに暮らす
人々が仕事や勉強や楽しみのため
に、あらゆることに図書館
を活用し、豊かな生活を送るお
手伝いをするのが私の仕事です。
：図書館という名の宝庫の鍵を、
一人でも多くの人を持ち、自由
に活用する権利を行使して、ほ

しいと願っています。」

「図書館へ行こう」

あとがきより

講演を聴いて

吉原里絵

「あなたが今の松戸の図書館
に一番望むことは何ですか？」

この答えを私たち一人一人が
具体的に持つこと、それが田中
さんが私たちに伝えてくれたこ
とでした。

勿論杉並区には、各都市で目
ざましく発展する図書館におい
て、現在は当然受けられるサー
ビスと位置づけられた「検索シ
ステムのオンライン・ネットワ
ーク化」「予約サービス」など、

共通した業務であつても、そこに
住む住民の望みが実現している図
書館があります。かつて各図書館
に自館のカード式目録のみ存在し
ていた頃、これらのサービスは、
杉並区では次のように行なわれて
いたそうです。

自館に無い図書を探す場合、職
員は区内の図書館へ「あたりし」を
つけて問い合わせました。また、
予約された図書を取り寄せる方法
は、職員が通勤途中に他館に寄つ
たり、待ち合わせたり、会議で会
う職員同士で受け渡しをしていた
そうです。

優れた技術や方法にはかり目が
いきませんが、どちらのサービスも
利用者の「知りたい要求」を満足
させるために構築され、発展して
きたのです。

私の望みは「田中さんのような
人がいてくれたら」ということで
す。利用者の声をきちんと受け止

めてくれる職員を望みます。利用者
が図書館に入って来た時に、振
り向かない、あいさつをしない職
員がいる図書館。それは、利用者
へ意識を向けることが図書館業務
の中に位置づけられていないこと
と、利用者にそれを求められてい
ると感じていない現れのような気
がします。

私が望んでいるような職員はい
る、と考えています。育てられる
環境がないのだと考えます。行政
には環境づくりをしてほしいと思
います。

「おーい図書館ノ」と呼び続け
ていると「待てない」とため息も
出ますが、図書館がなくては私は
生きていけないという気迫を持つ
て、図書館へ行きましよう。もし
て職員に大きな声で「私の知りた
いことを探すのを手伝って下さい
！」と呼びかけましよう。

野田市立興風図書館 見学記

吉田えみ子

11月26日(土)、櫛のホールとの
複合施設として平成10年10月に
移転開館した野田市立興風図書
館を見学した。今回は館員にお
話を伺うことをせずに、利用者
として勝手に見学させて頂いた。
入口に特産品が飾ってあった
り、二階に軽食堂があったり
と、広々として明るく、閲覧者
用の机・椅子の数も多く、使い
易い雰囲気だった。
検索用のコンピュータが使
い易く、本のテーマを入力する
とテーマに合う書名が出て来て、
とても探し易い。松戸の利用者
用の機台では探せないので残念
だ。

図書館の二階に、昔の「興風
館」の書と利用の注意書がケ

ス内に飾ってあり、並べて興風図
書館の歩みがパネルで掲示してあ
る。興風館の歴史は古く、明治41
年に10数名の青年達が「戊申会」と
いう親睦団体を作り、「おはな
し会」をはじめ名士を招いて講演
会活動を続けるうちに、図書館の
必要性を痛感して、大正9年11月
に町内の有力者の協賛を得て、基
金1900円で「戊申簡易図書館」建設
に着手した。

注意書

一、本館の書籍を閲覧せられん
とするものは氏名を帳簿に
記入されたし

一、本館は一般公益の為に開設
せしものなれば、自己の書
物と思ひ大切に保護せられ
たし

一、本館は当分の間十五歳以下
のものを入館を謝絶す

一館内にはお互いに音読を遠慮せられたし

一書籍を館外へ持ち出さるる事は一切謝絶す

一本館は閲覧者が本館に於て修養の結果、益々向上発展せんことを期待す

大正十年六月五日

野田戊申会簡易図書館

この注意書を見ると、当時の若者たちの心意気が感じられ、いささか厳しい所はあるが、現代の乱れてしまった読書の心が正される気がする。

戊申会の図書館は千葉県内の活動として先駆的な役割をになつたばかりでなく、すべて青年達の手で行われた、ということがすばらしい。

その後、戊申会簡易図書館は野田町図書館になり、読書会や会報、文芸投稿誌を刊行するなど特色あ

る活動をし、大正14年には千葉県から、15年には文部省から、優良図書館として表彰された。

昭和4年、財興風会設立。町

立図書館から「財団法人興風会図書館」に管理運営を移して活動を続けた。更に昭和54年に野田市に移管され、町田市立興風図書館となった。

平成8年3月に「野田市図書館基本構想」が、図書館計画施設研究所の菅原峻氏を中心とする委員会より「明日の図書館サービスを目ざして」として刊行された。

すところ
。図書館は、地域の基本施設である。
。すべての市民に図書館サービスを一誰でも、いつでも、どこに住んでいても、どんな資料でも

野田市の図書館構想は右のよう
にうたっている。

因に松戸の分館は、「階段を昇らざるをえない所にあることが多く、身体の不自由な人などは昇れない」「開いている時間が短い」「バスに乗ってやっと辿り着いても、相談できる司書が足りない」という現状だ。

次回は、南、北の図書館、いちいのホール、関宿図書館へ、名物の「豆バス」に乗って訪問し、館員の方にお話を伺いたいと思いつながら、歴史ある奥深い街、せんべいの香がたたい、まんじゅうの

。図書館とは、市民の暮らしに役に立ち、市民の幸せを作り出すところ
。図書館とは、町の頭脳となるところ

。図書館とは、市民が互いに交流し、文化を創り出

おいそりな野田の街を後にした。

講演会

子どもに力をつける

学校図書館づくり

報告 青木和子

千葉市学校図書館指導員の配置
10周年（6年前からは全校配置）
に向けて、12月3日（土）、「千葉市
の図書館を考える会」主催で高桑
弥須子さん（市川市立稲越小学校
司書）の講演会が開かれました。

第一部は講演、第二部は千葉市
立生浜中学校司書教諭と学校図書
館指導員によるブックトーク、第
三部はフリートークでした。

高桑さんは、学校図書館利用に
よって子ども達にどのような力を
つけられるのか、そのために学校
司書・司書教諭・図書館指導員は
何をすればよいのか等、これまで
の実践をもとに話されました。

まず4月の職員会議で学校図

書館運営について話し、先生方
の理解を得る。学校図書館は子
ども達の学校生活を支える場
であり、サービス機関であること。
先生方もサービスを受ける立場
であることをしっかりと伝える。

4月に1年から6年までオリ
エンテーションをして、図書館
利用について丁寧に確認する。
図書の分類についても「仲間分
け」として1年生にも話す。

図書館のきまりはひとつ一
自分も他人も気持ちよく過ごせ
るようにみんなが気をつけよう。
「わたしの図書館」について
も図書館・何でも図書館とい
う二本柱は、個に対するサービ
スを大切に、個に対するサービ
ス・借りられる、相談できると
いうこと。

学校図書館には読み聞かせ・
ブックトーク・ストーリーテリン

グ・紙芝居・パネルシアター等
多様な読書活動がある。それらが
子ども達の生活の中に当たり前に
在るように心がけている。

学校図書館は児童館や科学館・
博物館の要素を含んでいる。そし
て文化や歴史を伝える所でもある。
自国の文化・歴史を知らなければ
他国の文化・歴史を認めること
できないだろう。

小さい公立図書館並の参考資料
を備えたい。基本は学校教育目標
や教育方針を理解し、年間指導計
画・学習進度を把握して、担任と
の意志の疎通をはかる。

本の紹介は生き方を紹介するこ
と。自分で本を選んで読むとい
うのは、自立への一歩である。

学校司書は図書館の理念を持ち
図書館経営案を職員会議で提案す
る。そして図書館関係者とのネッ
トワークを持つことが必要だ。

おおい図書館

発行 代表 青木 和子
 松本市牧の原1-104-416
 No107
 TEL 027-371-0886

講演会

図書館へ行こう！

10月29日(土)、岩波ジュニア新書

「図書館へ行こう」の著者田中
 子さんへ杉並区立中央図書館司書
 のお話を聞きました。(松戸市民
 劇場第二会議室 参加者28名)

田中：杉並区には、約52万人の人
 が住んでいます。ここに暮らす
 人々が仕事や勉強や楽しみのため
 など、あらゆることに図書館
 を活用し、豊かな生活を送るお
 手伝いをするのが私の仕事です。
 ……図書館という知の宝庫の鍵を、
 一人でも多くの人を持ち、自由
 に活用する権利を行使して、ほ

しいと願っています。」

「図書館へ行こう」

あとがきより

講演を聴いて

吉原里絵

「あなたが今の松戸の図書館
 に一番望むことは何ですか？」
 この答えを私たち一人一人が

具体的に持つこと、それが田中
 さんが私たちに伝えてくれたこ
 とでした。

勿論杉並区には、各都市で目
 ざましく発展する図書館におい
 て、現在は当然受けられるサー
 ビスと位置づけられた「検索シ
 ステムのオンライン・ネットワ
 ーク化」「予約サービス」など、

共通した業務であつても、そこに
 住む住民の望みが実現している図
 書館があります。かつて各図書館
 に自館のカード式目録のみ存在し
 ていた頃、これらのサービスは、
 杉並区では次のように行なわれて
 いたそうです。

自館に無い図書を探す場合、職
 員は区内の図書館へ「あたりし」を
 つけて問い合わせました。また、
 予約された図書を取り寄せる方法
 は、職員が通勤途中に他館に寄つ
 たり、待ち合わせたり、会議で会
 う職員同士で受け渡しをしていた
 そうです。

優れた技術や方法にはかり目が
 いきませんが、どちらのサービスも
 利用者の「知りたい要求」を満足
 させるために構築され、発展して
 きたのです。

私の望みは「田中さんのような
 人がいてくれたら」ということで
 す。利用者の声をきちんと受け止

めてくれる職員を望みます。利用者
が図書館に入って来た時に、振
り向かない、あいさつをしない職
員がいる図書館。それは、利用者
へ意識を向けることが図書館業務
の中に位置づけられていないこと
と、利用者にそれを求められてい
ると感じていない現れのような気
がします。

私が望んでいるような職員はい
る、と考えています。育てられる
環境がないのだと考えます。行政
には環境づくりをしてほしいと思
います。

「おーい図書館ノ」と呼び続け
ていると「待てない」とため息も
出ますが、図書館がなくては私は
生きていけないという気迫を持つ
て、図書館へ行きましよう。もし
て職員に大きな声で「私の知りた
いことを探すのを手伝って下さい
！」と呼びかけましよう。

野田市立興風図書館 見学記

吉田えみ子

11月26日(土)、櫛のホールとの
複合施設として平成10年10月に
移転開館した野田市立興風図書
館を見学した。今回は館員にお
話を伺うことをせずに、利用者
として勝手に見学させて頂いた。
入口に特産品が飾ってあった
り、二階に軽食堂があったり
と、広々として明るく、閲覧者
用の机・椅子の数も多く、使い
易い雰囲気だった。
検索用のコンピュータが使
い易く、本のテーマを入力する
とテーマに合う書名が出て来て、
とても探し易い。松戸の利用者
用の機台では探せないので残念
だ。

図書館の二階に、昔の「興風
館」の書と利用の注意書がケ

ス内に飾ってあり、並べて興風図
書館の歩みがパネルで掲示してあ
る。興風館の歴史は古く、明治41
年に10数名の青年達が「戊申会」と
いう親睦団体を作り、「おはな
し会」をはじめ名士を招いて講演
会活動を続けるうちに、図書館の
必要性を痛感して、大正9年11月
に町内の有力者の協賛を得て、基
金1900円で「戊申簡易図書館」建設
に着手した。

注意書

一、本館の書籍を閲覧せられん
とするものは氏名を帳簿に
記入されたし

一、本館は一般公益の為に開設
せしものなれば、自己の書
物と思ひ大切に保護せられ
たし

一、本館は当分の間十五歳以下
のものを入館を謝絶す

一館内にはお互いに音読を遠慮せられたし

一書籍を館外へ持ち出さるる事は一切謝絶す

一本館は閲覧者が本館に於て修養の結果、益々向上発展せんことを期待す

大正十年六月五日

野田戊申会簡易図書館

この注意書を見ると、当時の若者たちの心意気が感じられ、いささか厳しい所はあるが、現代の乱れてしまった読書の心が正される気がする。

戊申会の図書館は千葉県内の活動として先駆的な役割をになつたばかりでなく、すべて青年達の手で行われた、ということがすばらしい。

その後、戊申会簡易図書館は野田町図書館になり、読書会や会報、文芸投稿誌を刊行するなど特色あ

る活動をし、大正14年には千葉県から、15年には文部省から、優良図書館として表彰された。

昭和4年、財興風会設立。町

立図書館から「財団法人興風会図書館」に管理運営を移して活動を続けた。更に昭和54年に野田市に移管され、町田市立興風図書館となった。

平成8年3月に「野田市図書館基本構想」が、図書館計画施設研究所の菅原峻氏を中心とする委員会より「明日の図書館サービスを目ざして」として刊行された。

。図書館とは、市民の暮らしに役に立ち、市民の幸せを作り出すところ。
。図書館とは、町の頭脳となるところ。
。図書館とは、市民が互いに交流し、文化を創り出

すところ
。図書館は、地域の基本施設である。

。すべての市民に図書館サービスを一誰でも、いつでも、どこに住んでいても、どんな資料でも

野田市の図書館構想は右のよう
にうたっている。

因に松戸の分館は、「階段を昇らざるをえない所にあることが多く、身体の不自由な人などは昇れない」「開いている時間が短い」「バスに乗ってやっと辿り着いても、相談できる司書が足りない」という現状だ。

次回は、南、北の図書館、いちいのホール、関宿図書館へ、名物の「豆バス」に乗って訪問し、館員の方にお話を伺いたいと思いつながら、歴史ある奥深い街、せんべいの香がたたい、まんじゅうの

おいそりな野田の街を後にした。

講演会

子どもに力をつける

学校図書館づくり

報告 青木和子

千葉市学校図書館指導員の配置
10周年（6年前からは全校配置）
に向けて、12月3日（土）、「千葉市
の図書館を考える会」主催で高桑
弥須子さん（市川市立稲越小学校
司書）の講演会が開かれました。

第一部は講演、第二部は千葉市
立生浜中学校司書教諭と学校図書
館指導員によるブックトーク、第
三部はフリートークでした。

高桑さんは、学校図書館利用に
よって子ども達にどのような力を
つけられるのか、そのために学校
司書・司書教諭・図書館指導員は
何をすればよいのか等、これまで
の実践をもとに話されました。

まず4月の職員会議で学校図

書館運営について話し、先生方
の理解を得る。学校図書館は子
ども達の学校生活を支える場
であり、サービス機関であること。
先生方もサービスを受ける立場
であることをしっかりと伝える。

4月に1年から6年までオリ
エンテーションをして、図書館
利用について丁寧に確認する。
図書の分類についても「仲間分
け」として1年生にも話す。

図書館のきまりはひとつ一
自分も他人も気持ちよく過ごせ
るようにみんなが気をつけよう。
「わたしの図書館」について
も図書館・何でも図書館とい
う二本柱は、個に対するサービ
スを大切に、個に対するサービ
ス・借りられる、相談できると
いうこと。

学校図書館には読み聞かせ・
ブックトーク・ストーリーテリン

グ・紙芝居・パネルシアター等
多様な読書活動がある。それらが
子ども達の生活の中に当たり前に
在るように心がけている。

学校図書館は児童館や科学館・
博物館の要素を含んでいる。そし
て文化や歴史を伝える所でもある。
自国の文化・歴史を知らなければ
他国の文化・歴史を認めること
できないだろう。

小さい公立図書館並の参考資料
を備えたい。基本は学校教育目標
や教育方針を理解し、年間指導計
画・学習進度を把握して、担任と
の意志の疎通をはかる。

本の紹介は生き方を紹介するこ
と。自分で本を選んで読むとい
うのは、自立への一歩である。

学校司書は図書館の理念を持ち
図書館経営案を職員会議で提案す
る。そして図書館関係者とのネッ
トワークを持つことが必要だ。